

日本藻類学会第 42 回大会開催記・参加記

日本藻類学会第 42 回大会（仙台）開催記

青木優和

平成 30 年 3 月 23～25 日の日程で、日本藻類学会第 42 回大会（仙台）を東北大学青葉山新キャンパスで開催させて頂きました。参加者は 255 名、うち学生が 95 名、発表では口頭 62 演題、ポスター 78 演題、高校生によるポスター発表が 3 演題でした。また懇親会は参加者が 209 名と盛会でした。幸いにも 2 日も好天に恵まれ、清々しく気持ちの良い 3 日間となりました。

東北での開催は平成 11 年に山形大学で行われた第 23 回大会以来の 2 回目となります。東北大学農学部のキャンパスは北仙台的堤通雨宮町にあったのですが、平成 29 年の春に青葉山の一番高い場所に新たに拓かれた青葉山新キャンパスに学部全体が移転してきました。キャンパス内に地下鉄の「青葉山」駅も新設されて、登山の苦労なくキャンパスにたどり着くことができるようにもなりました。新キャンパスに落ち着いて 1 年が過ぎたところでの開催となったため、私たちもキャンパス内の施設利用のノウハウの蓄積がまだ全くなく、すべて手探りで準備開始となりました。教員スタッフも学生スタッフも私たちの水圏植物生態学研究室のみでは賅えそうになかったため、藻類学会員を学内で探し、理学部の井龍康文先生と川渡センターの福田康弘先生に実行委員に加わって頂きました。また、研究室の卒業生で理研食品に努める佐藤陽一氏にも参画をお願いしました。また、東北大学植物園の片岡博尚先生にはアドバイザーになって頂きました。学生スタッフは井龍先生の研究室と私たちの研究室から出動しました。

さて、大会が始まって初日は受付の対応が円滑に進まず、入場のための渋滞が生じてしまいました。私が準備段階で名札と領収証を別々に用意してしまったことと窓口をひとつしか設けなかったことが原因でした。このときご迷惑をおかけした皆さん、本当にすみませんでした。また、今大会では、A 会場と B 会場の大きさがずいぶん違って、B 会場の方には窮屈な思いをさせてしまったと思います。ポスター会場はなるべくゆったりと動けるような準備をしたつもりだったのですが、なかなか混雑していました。これら、会場についても反省することしきりです。大変な思いをされた方々、どうかご容赦下さい。

今大会では 2 日目の午前中に「沿岸域のモニタリング～藻場の過去・現在・未来」と題した公開シンポジウムを行いました。パート 1 は環境省のモニタリングサイト 1000 調査からのとりまとめ報告で海域ごとに 3 題の講演があり、パート 2 は東北沿岸での震災後のモニタリング調査の経過報告が 4 題ありました。全体的なまとまりが良かったこともあって活発な質疑応答が交わされ、有意義なシンポジウムになりました。



ポスター発表会場



総会にて、大会会長吾妻先生ご挨拶



日本藻類学会論文賞授賞式とむすび丸

た。このシンポジウムの成果は、Phycological Research への特集掲載が予定されています。一方、日曜の夕方には、若手の主催による可愛らしいミニシンポジウムが開かれました。「海藻と動物～忘れちゃいけないその関係～」と題して、5 題の発表が行われました。ふだん動物中心の視点から海藻との関わりを研究している若手研究者達が熱い発表を行い、ここでも活発な質疑が交わされました。



公開シンポジウム，田中先生ご挨拶



ミニシンポジウム「海藻と動物～忘れちゃいけないその関係～」

土曜日の夜の懇親会は、仙台駅前のホテル「ホテルメトロポリタン仙台」で開催しました。青葉山新キャンパスには150名を超える人員を収容できる会場がなかったため、少し参加費を高く設定させて頂いて、思い切ってホテルを会場に選んだのです。余り支持して頂けないかなととても不安だったのですが、結果として、200名を超える方々に出席して頂くことができ、とても嬉しかったです。あえて洋食メインにして、銘酒コーナーやスイーツのピュッフェなども用意してみたのですが、いかがだったでしょうか？

近頃、各地方に地元のゆるキャラが生まれています。仙台の「むすび丸」はその中でも人気ランキング上位に入っています。そこで、仙台の観光協会に頼んで、学会で「むすび丸」に登場してもらうことにしました。酒宴への出席は禁じられていたため、総会と公開シンポジウムの時に出演してもらいました。総会の時、私がいなくなると同時にむすび丸が現れたため、「むすび丸」の中身が私だと囁かれたらしいことを伺いましたが、誤解です。中に入っていたのは理学部の学生でした。私は懇親会の事前準備のために姿を消したのです。ちなみに2日目は元気の良い農学部の学生が入っていました。

24日にはワークショップというか実質的にはエクスカーションが2つ開催されました。ひとつは牡鹿半島での海藻採集で14名の参加者とスタッフが4名、もうひとつは東松島での海苔工場見学で6名の参加者とスタッフが4名でした。幸い天候に恵まれ、いずれのワークショップも予定通りに実施することができました。詳細については山本茉奈さんと福岡将之君によるワークショップ参加記をご参照下さい。

藻類学会大会の実行委員長を務めたのは、今回が2回目となりました。前回はちょうど20年前、横濱先生が大会長で平成10年の下田市での開催の時でした。広い会場の確保が難しかったために下田東急ホテルを借り切っているいろいろな工夫をしたことが懐かしく思い出されます。本当に時の経つのは早いものですね。

今回の開催にあたっては、準備段階から庶務幹事の方々に大変にお世話になりました。前回開催地の奥田会長と峯先生には準備のコツをいろいろとご教示頂きました。また、予告掲載やプログラム作成にあたっては、和文誌編集委員会にずいぶんご迷惑をおかけしました。須田先生には折々に助けて頂きました。中山剛先生には週末なぞお構いなしでぎりぎりまでプログラム編成にお付き合い頂きました。本当にありがとうございました。大会期間中の運営にあたっては、学会本部の方々や東北大学理学部の学生の皆さん、農学部の事務室および学生の皆さん、ダイビングステージアリエル、そして参加者の皆様のご協力を頂きました。企業の方々には賛助を頂きました。至らぬ点多々あったかと思いますが、おかげさまで無事に大会を終了することができました。ここに改めて厚くお礼申し上げます。

(東北大学)